

「糸のまち」について

1、長野県器械製糸の礎「高橋平四郎」

- ・富岡製糸場(明5年)の購買次と工女募集に貢献 (小諸から96人の工女)
- ・明治7年六供の松井川沿いに県下初の民間資本による器械製糸「丸萬製糸場」を開設 (32釜、動力は水車、器械は木製、工女の半数は富岡帰り)
- ・貿易会社「同伸社」の取締役、県下同業者組合「友誼社」の初代会頭、県模範工場「長野県製糸場」の経営等で県製糸業界を牽引

2、丸萬(明治15年倒産)の後継「純水館」

- ・荒町酢久商店の小山久左衛門正友は明治23年大里村諸に「純水館」を設立(100釜でスタート)
- ・久左衛門正友と長男小山邦太郎の経営手腕により最盛期には約2000釜を擁する大製糸工場に成長

第一工場(袋町)	538釜	丸純工場(六供)	550釜
丸東工場(紺屋町)	306釜	丸久工場(小原)	240釜
屋代工場(屋代町)	286釜	茅ヶ崎工場(神奈川県)	約200釜

- ・終戦までに丸純工場を残して他の工場は閉鎖
- ・昭和42年、丸純工場閉鎖 ・昭和56年 純水館企業組合閉鎖

3、丸萬創業(明7年1874)～純水館終焉(昭56年1981) 107年の歴史

【東信地域の主な製糸工場】()内は昭和2年の釜数

- ・小諸 純水館(1920) 明23年～昭56年 91年間
- ・丸子 依田社(4127) 明22年～昭20年 56年間
- ・上田 常田館(896)→笠原製糸 明治33年～昭59年 84年間
- ・中込 佐久社(966) 明30年～昭20年 48年間

「戊の満水」について

寛保2年(1742)8月1日に発生した千曲川流域の大水害で、寛保2年がみずのえいぬ(壬戌)の年に当たるため「戊の満水」と呼ぶ。流域全域で死者は2800人以上だったという。

1、小諸の被害 (「小諸洪水流失改帳」)

流家	372軒	流土蔵	28軒	潰家	42軒
流死	584人(男288人女296人)	流馬	23疋		

2、小諸の場合は千曲川が最低部を流れているため、千曲川支流中沢川と松井川の土石流による惨事だった。

3、惨劇の様子（「洪水覚書」藩士河合某）

「水、鉄砲の如く速く、水高さ2～3丈(1丈は約3m)にも及び、二川の水は六供、成就寺、尊立寺、託応寺、実大寺まで、東は光岳寺門脇まで押し破り、それより六供・田町、丸家一軒も残さず本町へ押し出し、両町たちまちの内に押し破り、それより城内に入り候節は四瀬となり、一瀬本町喜右衛門脇より大手番所を押し落とし広庭より足柄門を打ち破り、三の門に入り候……………」

大石大木、山のごとく流れかかり水浅にも上がるべき様もなく、子を抱き親を助けながらたちまち死するものあり、あるいは大木に乗って流れ行くもあり、その様々な死乱何程の人損じ候哉知らざる位にて、格別なるは本町より袋町まで家共流れくる内に、木にあたり候哉、岩に当たり候哉、川中にてみじん押し倒れ二、三十人ただ一度に流死の有様、目を驚かせ候ことこれなく候……………」

巡検コース

1、旧小諸銀行(現萬屋骨董店) 平成19年、国の登録有形文化財に指定される

- ・明治14年 小諸の商人や地主が出資して設立。小諸の製糸や商業の金融
- ・昭和3年 小諸銀行など9行が合併して「信濃銀行」となる
- ・昭和5年 世界恐慌の影響を受け支払停止（糸価暴落不良貸し付け）
- ・昭和6年 経営破綻 わずか3年で幕
- ・建物の特徴 漆喰を塗りこんだ重厚な土蔵造り、袖うだつ、飾鉄格子

2、光岳寺

- ・足柄門(1768年再建) 明治5年松下げを受け移築
- ・戊の滴水の供養塔 石仏「流死精霊為菩提也」(1754年建立)
- ・丸萬製糸場で働いた二人の名士の顕彰碑
日向吉次郎 江戸の能楽師、丸萬のボイラー焚き、赤坂で謡を教える
弟子は高橋平四郎はじめ300人に及ぶ 島崎藤村？
鈴木善之助(号善人) 囲碁の達人、丸萬での仕事は不明
小諸はじめ東北信に弟子多数、木村熊二もその一人

3、丸萬製糸場跡と工女の墓

- ・丸萬製糸場(明治7年～15年) ⇒ 浅岳社(18～) ⇒ 第二純水館(26～)
- ・純水館工場を見下ろす高台に眠る工女たち 向かって右から
明治43年6月6日 岐阜県吉城郡国府村 石原志ず 22歳

大正3年9月3日	岐阜県吉城郡神川村	坂下トク	19歳
明治38年7月17日	飛騨国吉城郡船津村	中山清吉姉	□□ 19歳
明治31年	富山県八尾	山方キヨ	21歳



4、成就寺

- ・学童疎開の碑 成就寺に疎開した人たちの有志が感謝を込めて建立した
 ※永六輔、小林亜星、畑山博(芥川賞作家)も小諸に疎開した
- ・全て流失した成就寺は、次の水害に備えて流れ出してきた石で寺のまわりを囲んだ。小諸藩から「城の石垣のようだ」と叱られたという。
- ・本尊の阿弥陀像は戸倉で拾われたという。

5、無縁堂の供養塔

- ・成就寺の北、中沢川沿いに身元不明の流死者を供養した塔や石仏が集まっている。
 無縁堂というがお堂はない。

6、純水館碑・沿革碑

- ・純水館の存在を後世に残すために、小山一族会や純水館の主な従業員等が発起人となり平成10年に建立した。 沿革文は斎藤幸男氏による。



7、唯一残された純水館の建物

- ・工女養成所(明治40年～) ⇒ 丸純工場(大正7年～)
 ⇒ 丸純工場の一部で発砲スチロール製造(昭和38年～)
 ⇒ 丸純工場と小諸プラスチック工場併設(昭和40年～)
 ⇒ 丸純工場閉鎖し純水館企業組合結成(昭和42年～)

寛保2壬戌8月(1742)朔日流死者供養塔
 400人余 信男 童男
 信女 童女
 三界萬靈有縁流聖霊等
 佐渡国雑太郡大浦村 安養寺弟子
 (小諸・六供町・無縁堂)